



H 2 0 年 1 0 月 2 0 日

さくしん

下氷鉋小学校

(校長室だより 6)

校長 大内 徹

つい先日運動会があったと思ったら、一ヶ月が過ぎ、音楽会の時期となりました。校舎のあちらこちらから子ども達の歌い声や奏でる楽器の音色が響いてきます。今年の音楽会のテーマは「伝えよう 音と心のハーモニー」であります。各学級、子ども達がどのように音と心のハーモニーを伝えあうか、今からとっても楽しみです。私自身は楽譜は読めませんし、昔で言うところの「笛」などはそれこそ不得手でした。また、何か訳の分からない外国語が並んでいるように見える楽譜は、私にとっては何ら意味を持たないものでした。今でも、楽譜を見ただけで即興で歌えたらいいだろうなあと思いますし、本校の音楽専科である朝日先生は、私の目には世界共通語の達人のように映ります。音楽は「世界共通語」の一つともよく言われ、たとえ住んでいる国が違って、話す言葉が異なっても、すばらしい音楽は聞いている人々の心に癒しや感動そして勇気を与えてくれるのです。音楽のない生活なんて考えられません。

音楽の楽譜などは駄目な私でしたが、幸い歌うことは好きでした。高校時代は何かの間違いで合唱部に入り、毎日朝夕の練習をしたことが思い出されます。三年間NHKの合唱コンクールにも出ました。歌っていると、心のもやもやが晴れて、すがすがしい気持ちになりました。仲間と一緒に一生懸命歌っていると心が一つに結ばれているような一体感を味わうこともできました。いつの時代、どこに行っても音楽はあります。私が合唱をやってきたからと言うわけではありませんが、心を癒してくれたり、心を豊かにしたりしてくれたりする音楽をもっともっと大切にしたいものだと思います。

音楽には、合唱ばかりでなく、合奏もあります。人にはその人だけの声があるように、楽器にも、それぞれの音色や持ち味があります。その楽器だけで聞いていてもいいものですが、いろいろな楽器の音色と重なり合った時に、その楽器の音色や持ち味が引き立ち、全体としてのまた新たな味わいが生み出されるから不思議です。全体としての味わいや心地よさを「ハーモニー」というのかもしれない。音楽会では、合唱にしても合奏にしても、「その時、その場で、その人たちだけによって創りだされる音」との出会いを味わい、その音のハーモニーや響きを心の中に大切に録音できればと願っております。

A sound mind in a sound body. (健全な身体に健全な精神) : 音楽の Sound(音)にひっかけて、こんな英語のことわざを思いつきました。これは教育の理想を述べた言葉かもしれませんが、健かな心の育ちにとって、健かな体の育ちが条件になるようですが、このことは、体に障害があったり病いを持っていたりする人には健全な心が育たないという意味では決してなく、子ども達を含めて、健やかな心の成長を願う時に、その体が望ましい環境に置かれ、大切にケアされているかを問うているものと私は考えます。何を食べさせて、どのような栄養を与えたらよいかという問題ばかりでなく、子どもの体がうまく働くように、一日をどのような生活のリズムで過ごさせたらよいか、どのような生活環境を用意してあげたらよいか考えてみたいところです。一日生活のリズムの節目をつくるものに、「寝る時刻」「起きる時刻」「食事の時刻」があります。県教委では、

「早寝」「早起き」「朝ご飯」というキャッチフレーズで、三つのことの励行を呼びかけています。極めて当たり前のことのようにですが、大変重要なことと私も考えています。

中三くらいになると、受験勉強で寝るのが12時近くになり、仕方ない面もあるかもしれませんが、12時を過ぎてから床に着くということは決して望ましいことではありません。少なくとも小学生のうちは睡眠時間をしっかりとらせ、朝ご飯は必ず食べさせて登校させてほしいです。夜更かしをして、睡眠時間が不十分な状態で、しかも朝食を抜いての登校とあっては最悪の状態です。寝不足の時には、周囲のちょっとした物音や声にも気が障ったり、ちょっとしたことに苛立ったりしがちなものです。おなかがすいている状態では学習等に落ち着いて取り組めないものです。夜寝るのが遅いお子さんをお持ちのご家庭では、その要因になっているものを取り除いてやりたいものです。私が小学生や中学生の頃は、習い事や塾通いもなく、暢気と言えば暢気なものでした。下校してから塾や習い事に出かけるお子様をお持ちのご家庭ではお子様の過剰な負担になっていないか、子どもがゆったりと家族間で談笑したり、読書をしたりする時間も確保されているかについてもご検討下さい。

話は変わりますが、先日校長室のお掃除に来ている6年生女子のYさんが「お腹が痛い」とかがんでいたら、同じ分担の男子の子が「休んでいていいよ。・・・僕達、かわりにできるから・・・」と優しい言葉を投げかけていました。掃除が終わる頃、「だいじょうぶ？」とYさんのことを気遣っていました。このような6年生のちょっとしたやりとりから、6年生男子の心の育ちを感じるとともに、気持ちのゆとりがないと出てこない言葉かなと思いました。健やかで穏やかな心の中に、他を思いやる心配りや思いやりの気持ちが生まれます。体と心はつながっています。体と心を鍛えるとともに、体や心が十分な栄養、休養を与えられ、安定した状態に保たれているか常に私たち大人は気を配っていければ幸いです。

(右欄は信毎より。許可済)

